



# With Kids

海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会



●●● Newsletter 25号 2021年 7月10日 ●●●

コロナ禍での生活が始まって、1年が過ぎました。日本でもワクチンの接種が始まりましたが、海外を行き来できるようになるまでにはもう少し時間がかかりそうです。海外に在住のご家庭では日本への一時帰国が難しく、不安な日々を送る方も多いのではないかと思います。それぞれの国で様々な状況があるかと思いますが、少しでも皆様のお力になれるようなサポートを目標に、身を引き締めて活動に取り組んでまいります。(NH)

## 7月号テーマ：「コロナ禍でのオンライン授業による子ども達への影響」

### 1. 家庭でできるネット依存への対応 — ルール作りについて —

コロナ禍が続く中、登校が再開されていても、行事や部活動など日常的に様々な制限が課されるようになって1年以上になります。つい手近にあるスマホに手が伸びてしまうのも無理ないことのように思えます。ここでもう一度、この問題に親子でどう向き合ったらよいのか、一緒に考えてみましょう。

まず初めに頭に思い浮かぶのは、「ルール作り」のことかと思えます。「作ってもなかなか守れない。話し合う関係を作ること自体難しい」など、親御さんの声をよく耳にします。ルール作りの目標は、いかにネットを使わせないかということではなく、いかにネットをお子さんの生活によりよく活用できるかというところにあるのです。お子さんがネットに依存する理由(背景)を探ることです。ネットにお子さんは何を求めているのでしょうか。この本質的なところを理解することがとても大切です。

例えば、共感や承認欲求を満たしてくれる等、心の拠り所になっている場合もあります。あるいはオンラインゲームに熱中しているお子さんであれば、現実生活からは得られない達成感や一体感を感じているのかもしれません。

注意が必要なのは、ルールを取引に使うことです。例えば「学校を休んだから、今日一日スマホはだめ！」というように一方的な交換条件を出してしまうことが、よくあるようです。少しでも登校してほしい親心は理解できますが、子どもにとっては、自分を理解してもらえない悔しさ、寂しさ、孤独感を大きくしてしまいかねません。ネットのメリットと共に、デメリット(体力の低下、腰痛、視力低下、睡眠障害 etc.)について共通認識しておくことも必要です。

一方的に押し付けるのではなく、理解しようとする姿勢で、お子さんが納得できるものをよく話し合っ決めてみましょう。ルール作りが、親子関係を改めて考える機会になるといいですね。(KK)

参考資料：独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 樋口進、「ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち」吉川徹著

### 2. 海外でのオンライン授業下での子どもたちの様子

#### アジア A国

以前から ICT 活用を進めていた学校は速やかに動けた一方で、さまざまな不自由の中で、環境面とソフトの両方を整えるのに苦労した学校も少なくなかったようです。オンライン授業への不満が保護者から山ほど語られるなか、メリットは？と子どもと考えると、デジタルコミュニケーションの積極的な取り組み、移動に費やす時間の節約、ペーパーレスの推進などが出てきました。また「ちょっとこっそり遊ぶ」という意見もあり、どんな環境であっても、楽しいことへとアンテナを伸ばす子どもの力を感じました。置かれている状況で子どもたちができていることを認め、いかに伸びやかに過ごせるか、時間の管理やオフラインの過ごし方を含め、大人たちは柔軟に対応したいものです。(YA)

## アジアB国

2度目の外出規制の最中におります。保護者の声も取り入れ、先生達の多分の努力もあり、回を増すごとに、相互性のあるオンライン授業になっていきました。そのおかげで、子供の様子をたくさん知ることができました。どのように授業に参加しているか、どういう時に困っているのか、先生やお友達とどんな風に関わっているのか。学校、習い事、ご飯食べて寝る！の忙しい日々から離れ、「こうやって社会に出て踏ん張ってるんだなあ」と、ゆっくり感じさせてもらう機会となりました。子供にとっても、親を感じる中で、社会と関わる、そんな体験だったんじゃないかな・・・と思います。(TK)

## ヨーロッパC国

C国では2回の学校閉鎖がありました。1回目はパワーポイントや資料などを見ながら自分で課題を行うという形でした。教科書をプリントアウトしたり、パワーポイントの使い方を教えたり、課題を先生に送ったりと親がつきつきりでした。しかし、2回目は事前に教科書やタブレットの配布が行われ、授業もライブ形式でしたので、家で授業を聞くという普段の授業に近い形で、親は静かにしているだけでした。2回目のオンライン授業は2週間でしたが、特に混乱もなくスムーズでした。登校できなくても小学生にとっては先生やお友達の顔を見られ、一緒に授業を受けているという実感もあり、概ね好評だったようです。(NM)

日本の高校・大学では授業のオンライン化が進み、すでに多くの学校でオンライン授業が行われていますが、小・中学校でも1人1台のタブレットを使った授業の準備が進められています。多くの地域ではまだ導入したばかりでどのように活用していくかは検討中の段階のようですが、今後自宅に持ち帰ったタブレットの使用方法について、子どもとの間でお互いが納得できるルール作りが必要となりそうです。(NH)

## 活動報告・今後の活動予定

### — 活動報告 —

2020年6月 NL(No.23)発行

7月 たなばた会\* 開催

8月 世界各地のメンバーとのOnlineによるWorld MTG 開始(隔月開催)

10月 東京公認心理師協会 会報誌にて With Kids 活動紹介

12月 海外子女教育振興財団とのMTG

2021年1月 NL(No.24)発行

### — 活動予定 —

2021年7月 NL(No.25)発行/たなばた会 開催

9月 日本心理臨床学会 自主シンポジウム開催 テーマ「海外での不登校」



\*たなばた会は、With Kids が活動する上で関係している団体との情報交換会で、年1回開催しています。参加関係機関は文部科学省・国立特別支援教育総合研究所・海外子女教育振興財団・Group With・JAMSNET 東京 等です。

## — With Kids は海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする活動を行っています —

メール相談を受け付けています。ホームページ上の相談フォームからお申込みください。

●相談は無料です

●匿名での相談が可能です

●1つのご相談につき3往復までお受けします

●ご相談前に必ず、相談規約をご確認ください

ホームページ: <http://www.withkids-kaigai.com/>

